

松井明さんの寄稿連載スタート

多文化共生社会を目指し



松井明さん

松井明さん(上越市、52) 講師を務めている。「外国に
は、上越市教育委員会から委
託を受けた上越国際交流協会
から派遣され、同市内の小学
校で外国にルーツのある子ど
もを対象にした、日本語支援

講師を務めている。「外国に
ルーツのある子どもや留学生
と学校をつなぐ仕事をした
い」。重ねた経験と深めた知
識を糧に、多文化共生社会実
現を目指し日々活動してい
る。

松井さんは福井大卒業後、
新潟県中学校技術科教員に。
海外赴任経験のある友人から
の勧めで、2019年から3
年間、上海日本人学校浦東校
加している。

帰国後、上越市内に住む外
国人の数が増加していること
を知った。同市によると、5
年前に1536人(19年4月)
だった外国人在住者の数は、
2151人(24年4月)に増
加している。

24年3月に教員を退職。上
越教育大学院の科目等履修
生として日本語教育や国際理
論を描きます。

日本語の生活言語能力は一
般的に2年ほどで習得すると
いわれる。一方、教科書など
に出てくる日本語特有の言い
回しや専門用語など、学習言
語能力を身に付けるには膨大
な時間がかかることとされ、苦勞
する外国人の子どもは多いと
いう。

連載「イツ・ア・スモ
ールワールド」松井的多文化共
生社会をめざして」は、松
井さんが自らの視点で、上海
在住中の出来事や帰国後の上
越市での日本語支援の様子な
どを描きます。



松井的多文化共生社会をめざして

9月18日に深圳(し
んせん)日本人学校に
通う日本人男児が刃物
で襲われ、死亡すると
いう痛ましい事件が起
きました。導う都市と
はいえ、日本人学校に
勤務し、子どもを通わ

日本人学校 日本人学校の安全対策



高い壁と有刺鉄線で囲まれる上海
日本人学校浦東校

せた親として、心が引
き裂かれる思いです。
心からお悔やみ申し上
げます。

日本人学校は国外に
をける学校です。世界
に住む日本人の児童生徒
の50の国や地域に94校
を対象に、日本国内の
が設置されており、約
1万6000人が学ん
でいます(2024年
4月15日現在)。

児童生徒と先生は北
海道から沖縄まで全国
各地から集まります。
親の仕事の関係で世界
中の日本人学校や現地
の学校を転々とし、日
本の学校に通ったこと
がない児童生徒もいま
す。

各日本人学校は特に
安全面に配慮してお
り、上海日本人学校の
小中学部の児童生徒
は、必ずスクールバス
でいきます。今回の事件は

登校中の日本人学校敷
地外という、安全対策
が弱い部分で起きてし
まいしました。

新潟県国際理解教育
研究会によると、現在
上越3市から上海日本
人学校虹橋校に2人、
スイスのチューリッヒ
日本人学校に1人の先
生が赴任。全国各地、
世界各国から集まった
児童生徒、先生方で協
力しながら学校生活を
送っています。

安全面に配慮してお
り、上海日本人学校の
小中学部の児童生徒
は、必ずスクールバス
でいきます。今回の事件は

日本人学校は市立や県立、国立などの公立学校ではありません。多くの日本人学校は現地の日本人会や商工クラブなどの日本人や日本企業の団体によって設立され、文部科学大臣から日本国内と同等の教育を行うことの認定を受けた「私立」学校です。



日本人学校は私立学校



上海日本人学校浦東校での運動会の様子。日本ならではの運動会に現地の人も興味津々でこっそりのぞいていました

文部科学省では、外国で生活する日本人の子どもにも、日本国内の教育の機会均等と義務教育無償の精神を大切にしなが、日本国民学校へ派遣していま

す。日本と同等の教育を行うので、日本人の教師が日本と同じ教科書を、日本の教科書を使って教えています。私は2019年から城北中に籍を置いて、文部科学省を通じ、新潟県から上海日本人学校浦東校へ派遣されました。



プロフィール 松井明
(まつい・あきら)
＝上越市出身。元新潟県中学校技術科教員。2019年から3年間、上海日本人学校浦東校へ赴任。現在は上越市内の小中学校で日本語支援講師を務める。さくら国際高校新潟国際学園の上越地区担当。

帯同した息子も私と同じ学校に通いました。が、私立学校なので授業料がかかりました。また給食はなく、毎日弁当持参です。教師の住居は不測の事態対応とセキュリティ上の



国際理解教育研究会のHPはこちら

どのものもあります。ぜひ読んでください。

数十年も前の話だが、春休みになると計画を立て、旅行会社で具体化し実行した。一年の中で唯一無二の時間がある。

北陸線で京都へ。そこから奈良線で奈良へ。そこから目的地とする所へ行く支線に乗り換える。毎年細かな計画がある。

当に盆地に三山がある。香真山の手前に畝傍山、ちよつと距離を置いて耳成山。昔、畝傍山と耳成山が、香真山を巡って相争ったなんて言い伝えもある。

社がある。ここは橿原市になる。耳成山はちよつと距離があるので後回し。奈良には見たい物が数多くある。古墳など数あまた。1回で見られる物ではない。時間を

友えな 保坂 亡かな

多くの人と出会い愛を受けた92年。その折々の事象は唯一無二、

ど、約束の佐渡に行くよと言いました。うれしくて佐渡に住む友に伝えました。宿泊地とコースは友が世話、2人の旅は心配だと都合をつけ夫婦で付き添うなど、周りを巻き込んだ。

身の彼女と寄宿舎生活。同室で大学生活が始まりました。学部も教師を目指すという夢も似て、社交ダンスや人形劇で小学校を訪問など青春を楽しましました。

知件数は中学、高校、特別支援学校で増加した一方、小学校で減少した。

文部科学省が10月31日、令和5年度「児童生徒の問題行動・不登校等の状況」を公表したことに合わせ、同日、県教委が本県分を公表した。

発表によると、児童生徒による暴力行為は小学校で3115件、中学校で857件、高校で137件の計41

全ての校種で増えた。内容的には「生徒間暴力」が最も多い。件数増加の背景として、いじめ認知に伴うものや、教職員が見逃さず認知し初期対応が行われたためとみている。

6件、特別支援学校で190件の計2万403件(前年度1万9644件)となった。小学校で124件減少した一方で、中学校で466件、高校で388件、特別支援学校で29件それぞれ増加した。

1000人当たりの認知件数は97.0件で、この傾向について県教委は「積極的な認知に努める意識は定着している」とした上で、引き続き研修や生徒指導

2日
3日



3 イッツア スモールワールド

松井的多文化共生社会をめざして



ある木曜日の午後6時。「コンバンワ」

「あら、久しぶり! 元気だった?」「シゴトガイソガシクテ」

「そうだったんだ。今日も頑張りましたよ!」

ここは上越市市民プラザの一室です。

上越市の委託を受け、上越国際交流協会(JOIN)が主催する

生活日本語教室 地域社会に入っていくために

生活日本語教室では、上越で働く外国人労働者やその家族など、外国にルーツを持つ人々が日本語を学ぶために集まっています。

「日本語で買いたいことができるようになりたい」「近所の人と日本語で話したい」「職場で日本の同僚とコミュニケーションを取りたい」など、教室に通う理由はさまざまですが、共通しているのは日本語を学びたいという強い意欲です。

働いた後で疲れているはずの皆さんも教室に集まると、その目は



絵カードや実物を使いながら、生きた日本語を学ぶ参加者

輝いています。「これは私の本です」「この本は私の本です」「この本は私のものです」といった難しい日本語の表現を繰り返し声に出して練習し、日常生活で使えるように学んでいます。

外国人が生活に必要な日本語を学び、地域社会に入っていくための大切な場であり、日本人にとっても異文化への理解と寛容性を育む場となっています。

JOINでは、市民プラザや直江津学びの



プロフィール 松井明 (まつい・あきら) =上越市出身。元新潟県中学校技術科教員。2019年から3年間、上海日本人学校浦東校へ赴任。現在は上越市内の小中学校で日本語支援講師を務める。さくら国際高校新潟国際学園の上越地区担当。

県の小学校教員に採用された。新任は山間部の僻地（へきち）2級校だった。複式学級もある小規模校で、無名に近い存在だった。しかし、音楽に堪能な40

に赴任してから、合奏のうまい学校として地域にその名が知られていた。

赴任してすぐに校長から「直江先生、合奏の指揮を執ってくれ

あつさりとなしたの

小太鼓の後任は、例

子ちゃんは何ひ仲ひと

だった。しばらく興奮



上越市内の小学校で6月から、中国籍児童A君の日本語支援を担当しています。A君は日本語での会話や読み書きがほとんどできない状態で来日しました。6月下旬に翻訳アプリを通じて、カブトムシの話をする、A君は本物のカブトムシを見たことがないこと

小学校での日本語支援 夢中になれるものと日本語習得

が分かりました。

私は毎年、カブトムシを繁殖させていて、今年は雄4匹、雌5匹が誕生しました。そのうち、雄と雌の1匹ずつを学校に持参し、A君に見せることにしました。

彼はとても驚き、興奮しながら「いつ生ま

れたのか?」「何を食べているのか?」「ずっと生きているのか?」と次々に質問してきま

した。カブトムシを前にした目の輝きは、外国籍の子どもも日本の子どもも同じです。



僕の大切なもの—カブトムシの幼虫—

で「独角仙（ドウジャ

なっていました。

オシエン）」といいま

夏休み明け、担任の

す。A君が私の前で初めて発した日本語は

先生がA君に、カブト

「カブトムシ」で、続

ムシについて調べたこ

けて「雄」「雌」とい

とを学級で発表する機

う言葉も覚ええました。

会を与えてくれました。

彼はカブトムシの世話

た。A君は覚えてたの

を担当することになり、ますます夢中に

手をもらいました。



プロフィール 松井明
(まつい・あきら)
＝上越市出身。元新潟県中学校技術科教員。2019年から3年間、上海日本人学校浦東校へ赴任。現在は上越市内の小学校で日本語支援講師を務める。さくら国際高校新潟国際学園の上越地区担当。

吹きで土を湿らせるなど、世話を続けています。

児童生徒への日本語支援は単に言語を教えるだけでなく、子どもが好きなものを通じて日本語を学び、自分を表現する力を育むことが重要だと感じています。A君との関わりを通じて、日本語支援の大切なことに気付かされました。

在任は全4月1日
から9年3月31日までの
2年間。

林氏は道徳教育を専
門。同志社大学院博
士課程前期課程を修了
し、学位は文学修士。
平成8年に学校教育学

5 イッツア スモールワールド

松井的多文化共生社会をめざして



私が日本語支援を担
当している上越市内の
中国籍児童A君が、前
回お話ししたカブトム
シの次に、新たに好き
になったものは『かい
けつゾロリ』と『おし
りたんてい』という、日
本の人気児童書です。
東アジアでも評判
で、中国語版も発行さ
れています。上海駐在

クラブ認定制度など盛り込む

上越市地域クラブ活
動推進委員会(座長・
長谷川晃一上越教育大
大学院講師)は28日、
同市新光町1の上越文
化会館で本年度第3回
の委員会を開き、上越
市地域クラブ活動整備
方針の案について協議
した。

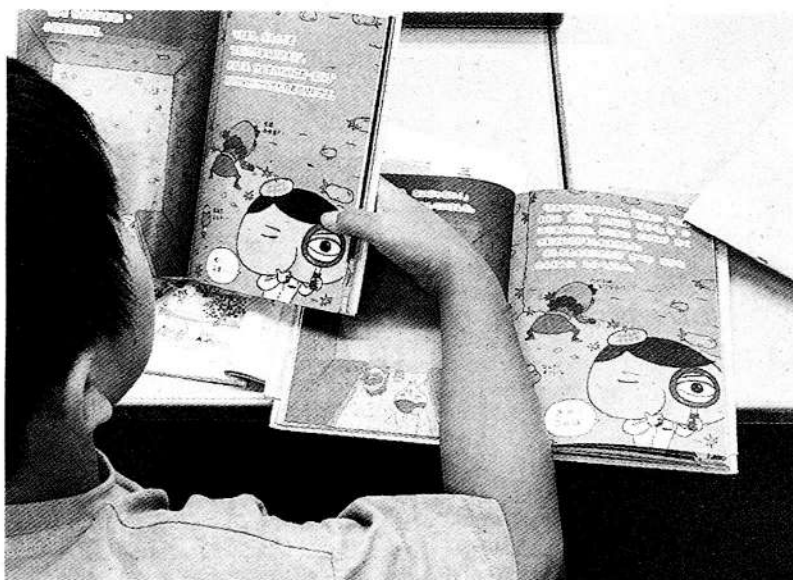
整備方針案は3章立
てで、策定の趣旨や地
域クラブの「認定制
度」など盛り込む。上
越市地域クラブ活
動整備方針は委員会か
らの意見を参考に、市

日本語支援と母語保持の大切さ

中に中国語版を見つ
け、息子の中国語学習
に役立てようと数シ
リーズ購入して日本へ
持ち帰りました。

当時、息子は『かい
けつゾロリ』と『おし
りたんてい』が大好き
でしたが、数年後には
違う本に興味に移り、
中国語版は使われるこ
となく押し入れにしま
われていました。しか
し、A君の日本語支援
の際、これが役立つと
思い見せたところ、A
君は夢中で中国語版を
読み始めました。

しばらくして、私は
日本語版もA君に見せ



「おしりたんてい」(ポプラ社)の中国語版
(左)と日本語版(右)

それぞれの言語の意味を
対応させながら理解
し、日本語の勉強に役
立っています。

母語である中国語版

これからもA君が安
心して日本で勉強し、
生活できるようにサ
ポートを続けていき
たいと思います。そし
て、将来A君が日本と中国
の架け橋となって活躍
してくれることを心か
ら願っています。

母語である中国語版
を読むことで内容が理
解でき、次に日本語版
を読むことで自然に日
本語の学習が進むので
す。外国籍の子どもに
とって母語は思考のた
めの重要なツールであ
り、母語の保持は彼ら
のアイデンティティ



プロフィール 松井明
(まつい・あきら)
＝上越市出身。元新
潟県中学校技術科教
員。2019年から3年
間、上海日本人学校
浦東校へ赴任。現在
は上越市内の小学校
で日本語支援講師を
務める。さくら国際
高校新潟国際学園の
上越地区担当。

自由画廊 私の作品

皆さん
の作品
を掲載
します。

〒943・858
times@j

13日に行われた安全
故、無災害を願った



無事故



13日時点のゲレンデ
の圧雪車

が行われ、今季の無事故、無災害を願った。
同社での運営5年目となる今季は、第2クワッドリフトの架け替え工事（来年12月にリニューアル予定）に伴

6 イッツア スモールワールド

松井的多文化共生社会をめざして



上越市の小中学校では日本語指導が必要な児童生徒が多く在籍しており、上越市教育委員会は子どもたちへの日本語支援を行っています。12月4日現在、小学校12校で44人、中学校5校で19人が支援を受けており、その多くは親の仕事の関係で

日本語支援の初期指導

学校生活は多文化共生社会実現の第一歩



初期指導教室。実物のランドセルや給食セットで学ぶ

来日した子どもたちです。子どもたちは来日後、市民プラザ内の上越国際交流協会で2週間にわたり「初期指導」を受けます。この指導では20時間をかけて、

平仮名や片仮名の学習や「トイレに行きたいです」「おなか痛い」「サバイバル日本語」と呼ばれる学校生活で最低限必要な日本語を学びます。

併せて、教科のことやランドセルで登校すること、給食では同じ食事をみんなで食べることも学習します。その保護者も日本の教育システムや学校生活について学ぶ機会

があります。一般的に日常会話などの生活言語能力を習得するには2年程度かかるというわれており、教科書の専門用語や抽象的な概念を理解する学習言語能力を身に付

けるには5年以上を要するとされます。同時に、日本の子どもたちも彼らと関わることで、互いを理解し、尊重し合う姿勢を学んでいきます。このような日々の交流は、異文化理解や多文化共生の重要性を実感する貴重な機会であり、共生社会の実現に向けた第一歩となります。



プロフィール 松井明
（まつい・あきら）
＝上越市出身。元新潟県中学校技術科教員。2019年から3年間、上海日本人学校浦東校へ赴任。現在は上越市内の小中学校で日本語支援講師を務める。さくら国際高校新潟国際学園の上越地区担当。

525・4163)へ。
 上越支局(電025・

生き永らえていくこと

直江 京(ペンネーム)

小学校3年生の頃 学年はみんな元気でと
だったと思うが、担任 てもいい。誰が一番元
が子どもたちに「この 気な子かな」と問うた。

この時代、家の跡継ぎ
は親戚一同からも大切に
育てられたようだが、
その欠点も多かった。
「おまえは温室育ちの
子だなあ」と親戚にや
ゆされることが

されて下校したことは
何回もあった。頻繁に
風邪をひいて、小さい
頃から「村の診療所」に
通いどおしだったが、
その医師は「この子は
30歳までは生きられな

数をお守りください。長文の際は掲載でき
ない場合がありますのでご注意ください。
住所、氏名、年齢をお書きいただければ

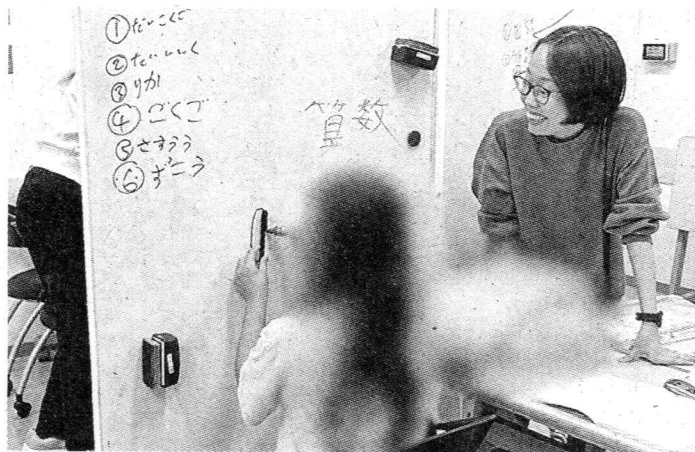
5・6603・メール
su.ne.jp)です。

いね」と家族に告げた
処置が手遅れになっ
そうだ。その医師だが、
た。おなかの痛さを訴
えたのだが、そのまま
した。手術と療養で1



私はオンラインで関
東在住の中学生に国語
を教えています。彼は
日本生まれですが、両
親が外国籍で「外国に
つながる子ども」です。
小学校はインターナ
ショナルスクールに通
い、日本の国語教育を
ほとんど受けていま
せん。現在、地元の私立
中学校に通っています

外国につながる子どもたちへの学習支援 支援は上越から全国から



LAMPでの一コマ。「いいこと思い出した」と、ペンを縁取りする外国につながる子どもを講師の大学院生が温かく見守りながら学習を進める

が、国語の授業を難し
く感じており、私が家
庭教師としてサポート
しています。

上越での外国につな
がる子どもたちへの学
習支援の一例として、
上越教育大学による修
学支援事業「子どもL
AMP(ランプ)」が
あります。この事業で
は、学部生や大学院生、

LAMPでは個々に
合わせた学習方法での
サポートが提供されて
おり、例えば紙飛行機
を作って飛距離を測る
ことで算数の「長さ」

留学生が対面やオンラ
インで児童生徒をサ
ポートし、教科内容の
理解を助けています。
活動は主に放課後、
大学の教室で行われて
います。外国につな
がる子どもたちは母国
の教育カリキュラムと
の違いや日本語力の遅
れから、教科書に出て
くる専門的な用語や概
念の理解が難しいこと
があります。

また、このような学
習支援は新潟県内外の
NPO法人や団体でも
行われています。遠隔
地の場合でもオンライ
ン支援を活用できるほ
か、留学生が母語と日
本語を使って支援する
事例もあります。

こうした取り組み
は、上越にとどまらず
全国からの支援によっ
て外国につながる子ど
もたちへの学びの機会
を広げています。子ど
もたちが学びやすい環
境を整えることで、国
籍や背景など関係なく
全ての子どもたちが社
会で活躍できる未来を
築いていくことができ
ます。



プロフィール 松井明
(まつい・あきら)
＝上越市出身。元新
潟県中学校技術科教
員。2019年から3年
間、上海日本人学校
浦東校へ赴任。現在
は上越市内の小学校
で日本語支援講師を
務める。さくら国際
高校新潟国際学園の
上越地区担当。

日の衰えは気持ちも萎縮させる。でも、こんな日差しがみえて、こたつにしがみついているのもなあ……。思案のあげく、やってみるしかない」と立ち上がった。

ポットを買えた。うれしくて、つえを忘れそうになる。そうだ。ここまで来られた自分にご褒美をとレストランに寄る。ウェイトレスさんが申

など。でもお店に入る人はいない。日差しが当たらないベンチは寒い。とうとう歩いて本町3丁目まで。15分ほどでバスが来た。雪をならしてバスに乗る。到着。

数をお守りください。長文の際は掲載できない場合がありますのでご注意ください。住所、氏名、年齢をお書きいただければ

5・6603、メールアドレスsune.jp)です。

とでかい声でお礼を言いつながる子どもたちが増加しており、行政や各種団体による研修会の実施が広がりを見せています。その中でも上越市は日本語支援において先進的な取り組みを行っており、実践発表や研修会の講師として招かれる機会もあります。

町1、87歳)

9 イッツア スモールワールド

松井的多文化共生社会をめざして



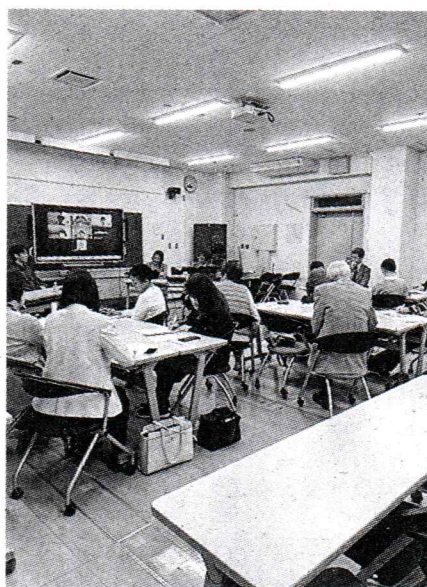
上越市では、小中学校の学級に外国につながる児童生徒が在籍することが一般的になりつつあります。これを受けて、彼らの学校生活をどのように支援していくべきかを考える研修会が実施されています。

その一例として、「多文化共生セミナー」

研修会の実施

外国につながる子どもを支える取り組み

があります。この研修会には上越教育大の鈴木克典特任教授と上越国際交流協会の佐藤睦子事務局長が世話人を務め、多文化共生や日本語支援に関心のある市民や教職員を対象に、平成5年度から年5回



昨年11月16日の多文化共生セミナーでは24人の参加者が意見交換。今回は2月5日です

程度行われています。内容は、福岡や横浜など外国につながる子どもたちの割合が高い地域から講師を招いたり、オンラインで他県の実践事例を学んだりしています。また、参加者が実践や悩みを共

有し、より良い支援方法を話し合う場にもなっています。昨年11月6日の研修では「外国につながる子供とその保護者の思いを知ろう」をテーマに、ベトナム籍のBさん(現在18歳)と母親を招きました。Bさんは当時、日本語が分からないまま来日して上越市内の小学校5年に転入しました。当時の学校生活や日本語支援について振り返り、参加者と共に外国につながる児童生徒への支援の在り方を話し合いました。

必要とする子どもたちが地域全体に散在しているため、一人一人の背景や実情に合わせた支援が必要です。専門的な知識や経験も重要ですが、まずは地域住民が実態を知り、支え合う意識を持つことが、みんなが住みやすい地域社会をつくる

支援の方法に正解はなく、上越では支援を

思います。



プロフィール 松井明(まつい・あきら)
＝上越市出身。元新潟県中学校技術科教員。2019年から3年間、上海日本人学校浦東校へ赴任。現在は上越市内の小中学校で日本語支援講師を務める。さくら国際高校新潟国際学園の上越地区担当。

私の一番の記念日は
愛犬の誕生日、2月27
日です。

7年前に主人が亡く
なってから、いつも私

莉原その子

を支えてくれていま
す。納骨が終わり、ゴー
ルデンウィークにペッ
トショップから小さな
段ボールに入れられ

ら慢性じんう炎とアト
ピー性皮膚炎の病気が
あり、毎日薬を飲んで
治療中。

「ボク、まだ2歳」

なんて構っていました
が、あつという間に6

ない場合がありますのでご注意ください。
住所、氏名、年齢をお書きいただければ

sure.jp)です。

年が過ぎました。誕生
ます。

日を迎えるたびに「1
年間命があつてよかつ
たね」と声をかけてい

ママはパパの命日を
1日間違えて、位牌
(いはい)を見て気が

付くおつちよこちよい
だけど、「鑑平君」の
誕生日は絶対忘れない
よ。もっともつと長生

きしてママを支えてく
ださいネ！ママも精
いっぱいお世話しま
す！（上越市南城町1）



東京では、コンビニ
や飲食店などで多くの
外国人が働いている光
景が見られますが、そ
の多くが留学生や技能
実習生です。外国人が
日本で長期滞在するに
は在留資格が必要で、
留学生の場合は「留学」
という資格を取得しま
す。

留学生は出入国在留

日本を支える外国人 餅を作ってはいるけれど…



コンビニエンスストアで働く留学生。労働時間の制限があ
るため、早朝や夜などの時給が少しでも高い時間帯に働く
ことが多い

管理局に資格外活動許
可を得た上でアルバイト
が可能ですが、原則
として週28時間以内、
夏季や冬季の長期休暇
中は1日8時間以内、

週40時間以内という制
限があります。多くの
留学生はこの範囲内で
働きながら学費や生活
費を賄っています。
私が日本語を教えて

ですが、家で餅を食べた
か聞くと「餅の食べ方
が分からず、家では食
べなかった」と話して
いました。
上越では店舗で働く

いる上越や中
越地域の留学
生に冬休み明
けに「正月は
どう過ごしま
したか？」と
聞くと、ほと
んどの留学生
が「アルバイト
をしまし
た」と答えま
した。ある学
生は餅工場で
働いたそうで
いる上越や中
越地域の留学
生は多くはありま
せんが、私が教えている留
学生の中には上越市内
のコンビニでアルバイ
トをしている学生もい
ます。また、弁当や加
工食品を製造する工場
には、「技能実習」の
在留資格を持つ外国人
が多く働いています。
建設業や工業製品を作
る工場も同様です。上
越でも、普段気付かな
いところで外国人が私
たちの生活を支えてく
れているのです。
私自身、年末年始に
コンビニの日本そばや
スーパードで買った餅、
おせち料理を楽しいま
したが、それらの製造
にも外国人労働者が関
わっています。彼らの
支えが、日本の日常生
活や文化を成り立たせ
ていることを改めて認
識しました。



プロフィール 松井明
(まつい・あきら)
＝上越市出身。元新
潟県中学校技術科教
員。2019年から3年
間、上海日本人学校
浦東校へ赴任。現在
は上越市内の小學校
で日本語支援講師を
務める。さくら国際
高校新潟国際学園の
上越地区担当。

いいよかん(ペンネーム)

13年前、私が59歳、主人が61歳の1月29日にそれが起こりました。

その年も雪が多い年

だったのですが、やっと雪もやみ、日が差し、穏やかな日曜日の午後でした。座椅子に座ってテレビを見てい

ませんが、誰もいないはずなのに、誰かが私の背中を両手で思い切りたたきました。「何をやっているんだ!」という感じです。私はわれに返り、す

何度も何度も叫びながら心臓マッサージを続けました。主人が突然に、心肺停止状態になってしまったのは不整脈が起きたためでした。

数をお守りください。長文の際は掲載できない場合がありますのでご注意ください。
住所、氏名、年齢をお書きいただければ

5・6603、メールアドレス su.ne.jp)です。

運び込まれた県立中 マッサージだったの「まだどこで誰かを
央病院の心臓外科の先 で、ご主人を助けるこ 助けてくださいね」と
生に「質の高い良い」とができたのですよ」 言っていただきまし

11 イッツア スモールワールド

松井的多文化共生社会をめざして



上越でも外国人を見かけることが増えてきました。学校や職場に外国籍の人がいる場合、私たちはコミュニケーションを取る必要が出てきます。その際多くの日本人がまず思うのは「英語で話さなければならぬが、自分分は英語が苦手…」と

やさしい日本語

「ご遠慮ください」は「しないでください」



留学生への日本語の授業。「やさしい日本語」を意識すると、学生たちの授業理解が深まる

いうことです。そこで、久しぶりに英語を勉強し直したり、英語を話すことができる人を探したりすることがあります。しかし、実は英語はどの

国でも通じる万能の言語ではありません。例えば、日本で最も多い外国人労働者の国籍であるベトナムの人の中には、英語を話さない人も多くいます。とは

いえ、その国の言語を学ぶことは現実的ではありません。では、どうすれば良いのでしょうか? そこで役立つのが「やさしい日本語」です。この考え方は、阪神・淡路大震災の際、多くの外国人が避難情報理解できず被災したことをきっかけに生まれました。例えば、「高台に避難してください」という言葉を「高いところに逃げてください」と言い換えることで、外国人に分かりやすく伝えられます。

この「やさしい日本語」は防災だけでなく、医療、教育、行政などさまざまな分野で活用されています。私が留学生に日本語を教える際にも、学生の日本語レベルに応じて「やさしい日本語」を意識しています。例えば、「音読してください」「声を出して読んでください」、「メモしてください」は「書いてください」は「書いてください」と言い換えます。「やさしい日本語」の「やさしい」には、「やさしい気持ち」と「やさしい伝え方」の両方が大切です。相手にとって分かりやすい表現を考え、状況に応じて使い分けることが、円滑なコミュニケーションにつながります。



プロフィール 松井明 (まつい・あきら)
＝上越市出身。元新潟県中学校技術科教員。2019年から3年間、上海日本人学校浦東校へ赴任。現在は上越市内の小中学校で日本語支援講師を務める。さくら国際高校新潟国際学園の上越地区担当。

り」に足を運んだ。前日まで大寒波に見舞われたが、当日は鉄道各線も運行し、無事に塩沢駅にたどり着くことができた。

当日の主な目的は、

回の演目は「白浪五人男」の地元版特別バージョンとのことで、「江戸の盗賊の五人男が佐渡に向かう道中、塩沢宿に立ち寄り、待ち伏せた捕り手と大立

者の鈴木牧之にちなんだ場所である。

なお、五人男の衣装は保存会が企業の助成金で購入したものである。役者が通る花道などのあらゆる舞台設営

衰退し消えゆくものがあるのも事実である。

少しでも生の塩沢歌舞伎に触れた者として一体何ができるだろうか？と思ひ、まずは自身が目にした、いわゆ

其々々々々々々々々々

高沢 公

事な城であったといひます。

名前は人名だけでなく、目に見えなく社会のあらゆる物に付いています。物ばかりでなく、目に見えないものや空想のものにまで名前がありま

城の東麓には真言宗で七堂伽藍(がらん)を配した「金剛院」という大刹(たいさつ)があった「堂の入り」

12 イッツア スモールワールド

松井の多文化共生社会をめざして



上越市では近年、毎年約2000人前後の人口が減少する一方で、外国人住民は直近3年で約200人ずつ増加しています。さらに、国際協力機構(JICA)の試算によると、日本の経済成長を維持するには、2030年には現在の約1.5倍、2040年には

「やさしい日本語」で料理交流会



食材の使い方や外国料理の材料の代用法を知るなど、参加者にとって新たな気づきの多い買い出しとなりました

約3倍の外国人労働者が必要になるとされています。

が前回紹介した「やさしい日本語」です。「は」は「はつきりやくすくなります。」

このため、上越地域でも今後さらに外国人が増え、多国籍化が進むと予想されます。こうした変化の中で、私たちが意識すべきなの

は、外国人にも分かりやすいように、簡単な表現で話す工夫をすることです。その際「は・さ・み」の法則を意識すると、より伝わり

までしっかり伝えました。「み」は「みじかく言う」です。一文を短くし、簡潔に伝えま

敬語を使い過ぎず、「ドンドン」などの擬音語や擬態語(オノマトペ)を避けることも、分かりやすさにつながります。

3月2日に上越国際交流協会主催の「世界のひととやさしい日本語



プロフィール 松井明(まつい・あきら)＝上越市出身。元新潟県中学校技術科教員。2019年から3年間、上海日本人学校浦東校へ赴任。現在は上越市内の小学校で日本語支援講師を務める。さくら国際高校新潟国際学園の上越地区担当。

昭和15年は紀元2600年記念の年ということで、日本では祝賀行事が盛大だったそうです。

この年の2月に私は

生まれました。名前は紀元2600年にあやかた「紀」という字が入っていて、父が付けてくれました。この年に生まれた人は、私の父の3倍近く生きた

小学生の時はクラス60人ぐらいで、女子は半数の30人。この中で「子」が付いていない名前が君枝ちゃん和我「操」の2人だけでした。今風のキラキラ

私の実家の祖母はハナという名前でした。私はずっとお花の花と思っていました。ある時、そうではなく最初

に生まれた子どもなので、鼻先のハナということを知りました。次女はツギ。納得です。母のきょうだいは実

た。子の付く名前が多い時代です。私の名字は当時の町内では2軒しかありませんでした。もう1軒とは何の関係もなかったのですが、

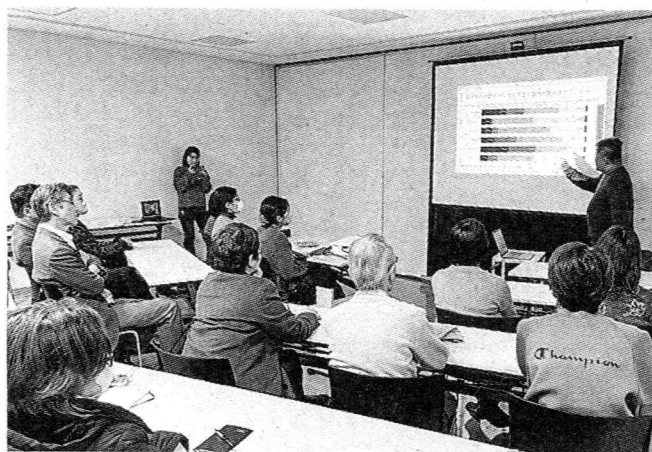
13 イッツア スモールワールド

松井的多文化共生社会をめざして



やさしい日本語は、外国人など日本語が得意でない人とのコミュニケーションに役立ちますが、実際に使おうとすると意外と難しいことに気が付きます。例えば漢語と和語の違いです。「会話」は漢語ですが、同じ意味の「はなし」は和語です。漢語は中国から

やさしい日本語で 快適なコミュニケーション



やさしい日本語を全国に広めている吉開章さんの講演会が2月8日にミューゼ雪小町で行われ、約20人の市民が参加しました

入ってきた言葉で、一般的に音読みされま。一方、和語は昔から日本で使われている言葉で、平仮名や訓読みの漢字で表されま。「はなしをする」

人にとってはとても難しいものです。日本語には尊敬語・謙譲語・丁寧語などの敬語があり、日本人同士でも、言葉の使い方に戸惑うことがあります。

先日、銀行から本人確認の電話がありました。対応はとても丁寧でしたが、説明が長く、結局「それで私は何をすればいいのですか？」と聞き返してしまいました。要点を簡単に伝えてもらうことで、もっと楽にやりと

やさしい日本語は、外国人だけでなく、日本人同士の会話にも役立ちます。伝えたいことを分かりやすく話すことで、よりスムーズで快適なコミュニケーションにつながります。

「させていただく」は「させてもらう」の謙譲語で、「相手からの許可」「恩恵を受けろ」という意味が含まれます。相手の許可を得ていない、得る必要がない場合には使用しません。

例えば「値上げさせていただきます」は、相手であるお客に許可を得ようとしているこ



プロフィール 松井明 (まつい・あきら)
＝上越市出身。元新潟県中学校技術科教員。2019年から3年間、上海日本人学校浦東校へ赴任。現在は上越市内の小学校で日本語支援講師を務める。さくら国際高校新潟国際学園の上越地区担当。

に体の衰えを感じる日々、墓についてこのまま守り切れるか、悩んでいます。山間地に住んでおりますので、急速な人口減少に伴い共同墓地の墓が年々少な

期に自然石で建立されたものです。先祖は代々に跡を継ぎ永代に供養して守ってほしいと願いを込めて建立したことを思います。家族が多様化し娘たちは家

した。

上越市のふるさと納税の返礼品の多彩さを改めて知り、納税制度で応援してくれる方々が増えることを願っております。

住所、氏名、年齢をお書きいただければ

sune.jp)です。

先祖供養を子から孫に継承していくことは、親としての使命であると思っておりますが、一緒に生活してい

ない子どもや孫に、日常の生活の在り方を伝えられないもどかしさ、そして自分たちの代で墓の今後を考えな

ければならない、ご先祖に対しての申し訳ないおわびに心苦しい切ない気持ちです。お寺のご住職、そして子ど

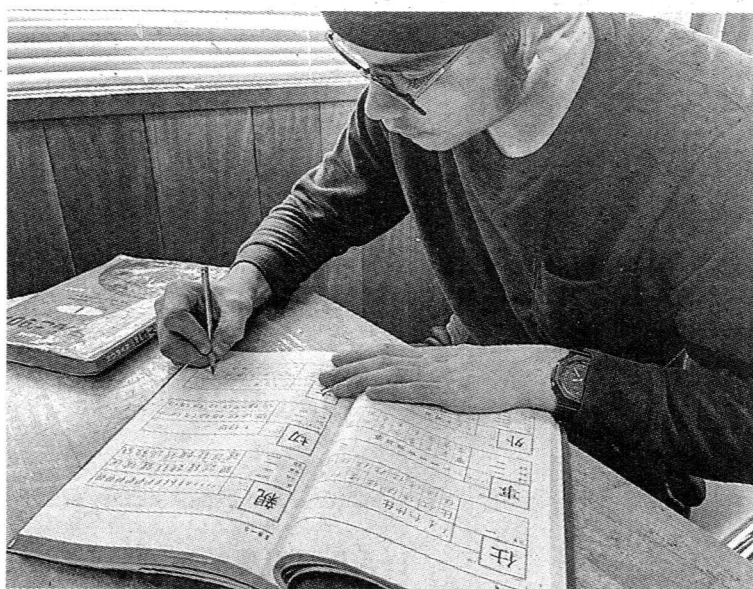
もたちと相談して、「大きな決断」をしながらはならないと考えています。(板倉区久々野、79歳)



日本語学習者にとつ

て、最も難しいのは漢字の習得です。画数が多く、形も複雑であることから覚えるのが大変です。さらに、小学校で習う漢字は1026字、中学校では1110字にも及びます。また、日本語の漢字は一つの文字に多くの

漢字習得の難しさ



読み方があります。例えば「生」という漢字は「セイ」「ショウ」といった音読みのほか、「い(きる)」「う(きる)」など多くの訓読みが存在します。加えて人名の「羽生」

昨年夏に来日して、漢字を一生懸命に勉強しているパキスタン籍のハムザ・カーンさん(18歳、上越市在住)

(はにゆう)「や、当てる字の「生憎(あいにく)」のような例もあり、読み方を完全に覚えるのは非常に困難です。

一方、漢字の発祥である中国で使われる漢字の読みは、基本的に一つの漢字に一つの読み方です。例外として二つや三つの読み方がある漢字もあります。が、数はとても少ない

です。それに比べ、日本で、規則性のない多様な漢字は送り仮名や文脈によって読み方が変わるため、学習者にとつてはとても難易度が高いです。日本語学習者たちはこの難しさに立ち向かい、懸命に努力を続け、漢字を一つでも多く覚えようとしています。その姿を見ると、日本語を学ぶ人々へ改めて尊敬の念を抱きま

す。日本語を第二言語として学ぶ人にとつて、



プロフィール 松井明 (まつい・あきら) =上越市出身。元新潟県中学校技術科教員。2019年から3年間、上海日本人学校浦東校へ赴任。現在は上越市内の小学校で日本語支援講師を務める。さくら国際高校新潟国際学園の上越地区担当。

イツア スモールワールド

15
松井的多文化共生社会をめざして



上越市清里区のグループホーム「癒しの家」では、ネパール出身の3人の職員が介護の仕事に従事しています。

彼女たちはネパールの日本語学校で日本語を学び、日本語能力試験（JLPT）N4（基本的な日本語を理解することができる）

介護施設のネパール3人娘



毎日の仕事後に日本語の勉強に励む3人（左からラクスマさん、インドゥさん、ビマラさん）

レベルに合格。特定技能1号の在留資格で昨年9月に入国しました。真面目な姿勢と丁寧な対応で、利用者や資格では最長5年間し

か日本に滞在できません。介護分野における人手不足を背景に、国は2019年4月に特定技能「介護」という新たな在留資格を設けました。

資格を取得すれば、更新を続けることで日本で長期的に働くことが可能になります。ただし、在留資格の変更には5年以内に介護福祉士の国家資格を取得する必要があります。

その上、この国家試験には多くの専門用語や難解な日本語の内容が出題されます。日本人でも理解が難しい

説明が多く、日本語学習者にとってはさらに高いハードルとなっています。

それでも彼女たちは、仕事を終えた後に毎日、日本語を勉強して資格取得に向けて努力を続けています。職場や利用者の皆さんも彼女たちの姿を温かく見守り、応援しています。私も日本語指導の支援をしています。



プロフィール 松井明（まつい・あきら）
＝上越市出身。元新潟県中学校技術科教員。2019年から3年間、上海日本人学校浦東校へ赴任。現在は上越市内の小学校で日本語支援講師を務める。さくら国際高校新潟国際学園の上越地区担当。

現在、日本全体で少子化による人手不足が深刻化し、介護をはじめ建設、製造業などさまざまな分野で外国人材の活用が進んでおり、上越でもその動きが広がっています。日本で働き、私たちのために地域に貢献している人々が上越を好きになってくれるよう、共に支え合っていきたいものです。

中国・上海には、日本への留学を目指して学ぶ高校が十数校あります。その一つが「朝陽義塾日本国際高校」です。私が上海に赴任していた頃、何度か訪問し、授業を見学したり、生徒や先生と交流したりしていました。同校は全寮制で30

イッツア スモールワールド

16

松井的多文化共生社会をめざして



日本への留学を夢見て

0人近くの生徒が在籍し、日本語だけでなく日本の文化や決まり、マナーを学びます。例えば、日本の学校で当たり前に行われる掃除は、中国では業者が行うのが一般的です。こ



日本での学校生活に備え、生徒自らが教室を清掃する
(4月18日、朝陽義塾日本国際高校にて撮影)

の学校では生徒自身が教室を掃除します。また「他人に迷惑をかけない」という精神の下、「整理・整頓・清掃・清潔・素養・安全」の六つを大切にしています。定期的に部屋のチェックが行われ、優秀な生徒は表彰されます。一方、改善が必要な場合は先生と話し合いながら改善に取り組みます。

私は先日、1週間ほど同校を訪問し、日本語授業のアシスタントをしました。生徒たちは午前中に日本語の授業を受け、午後は中国の高校の勉強に励みます。授業は1こま40分で、夜8時の10時間目まで続き、その後も寮で遅くまで勉強を続けています。

日本語を学び始めてまだ2カ月という生徒も、私と日本語での会話ができるほどのです。この努力は私も見習わなければと思います。しかし、実際に日本に留学すると、学校では学び切れなかった日本特有のマナーや習慣に戸惑うこともあるようです。だからこそ、私たちは日本人が、外国人の皆さんに分け隔てなく接していくことが重要だと思っています。マナーや習慣を伝えながら、共に安心して暮らせる環境を整え、共に地域を盛り上げていけたらと思います。



プロフィール 松井明
(まつい・あきら)
＝上越市出身。元新潟県中学校技術科教員。2019年から3年間、上海日本人学校浦東校へ赴任。現在は上越市内の小学校で日本語支援講師を務める。さくら国際高校新潟国際学園の上越地区担当。

でも相撲教室の子どもと一緒に稽古に取り組んでいたあの大きな里関が、大相撲の二所ノ関部屋に入門わずか12場所所で幕内優勝3回、今

国技において相撲ファンは一日も早く、日本人横綱の誕生を待っています。相撲は昔から国家安泰や五穀豊穡（ほう

西面で支えてこられた力士であり、一番感銘されることでしょう。私も大相撲界を8年間見てきましたが、その厳しさは並の世界で

僕の「やる気スイッチ」は山だ。山に登ると、僕の体は森林浴と宇宙オゾンでストレス

井上文夫
したが、庶民の山への憧れと愛着が、信仰拔きの登山ブームを巻き起こし、現在に至っている。僕は今や卒寿、超高齢者である。神宿高山登山は4年前、孫娘

17 イッツア スモールワールド

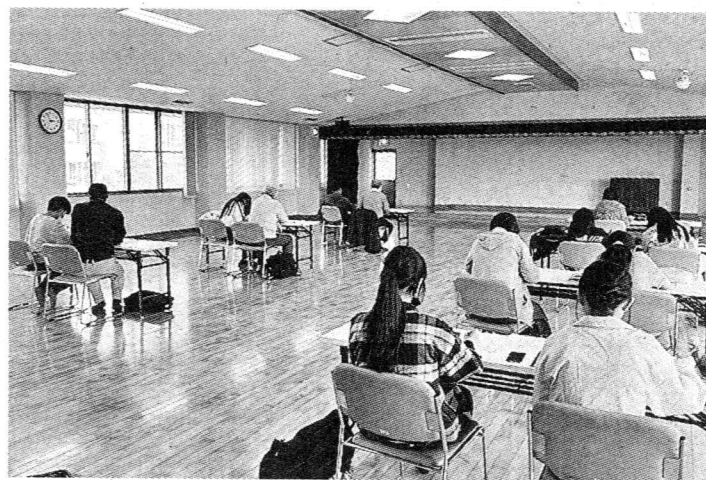
松井的多文化共生社会をめざして



上越市では外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援の一環として、「わくわくクラブ」という活動が行われています。この取り組みは、新潟工科大の非常勤講師である秋山正道先生が中心となり、令和5年度から始まりました。

きっかけは、秋山先生が上越市教育委員会

わくわくクラブ 外国出身児童への学習支援



スタッフの支援を受け、静まり返った部屋の中で黙々と学習に励む子どもたち（4月26日のわくわくクラブで撮影）

主催の平和の担い手養成講座である小学校に出向き、講師を務めた際の児童からもらった手紙でした。それは、たどたどしいひらがなで書かれた感謝の言葉

「先生は「地域で学校を支えたい」と強く思う

主権の平和の担い手養成講座である小学校に出向き、講師を務めた際の児童からもらった手紙でした。それは、たどたどしいひらがなで書かれた感謝の言葉

「先生は「地域で学校を支えたい」と強く思う

ようになり、この学習支援を立ち上げました。当初は上越国際文化交流協会と一緒に始めた活動でしたが、令和6年度からは頸城区地域協議会の支援を受け、土曜日や長期休みに定期的に実施されるようになりました。令和7年度からは上越市の事業としてスタートしています。

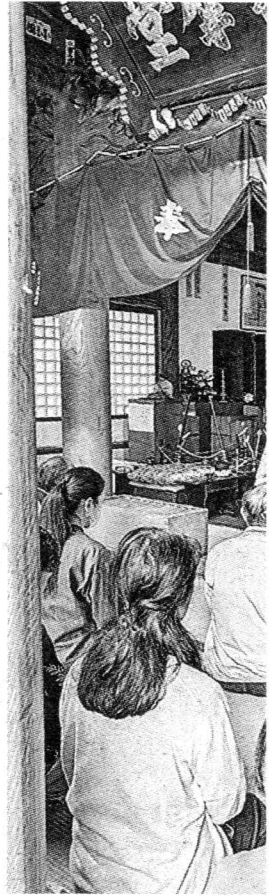
分野のフォローで、書き初めの宿題などでは楽しい雰囲気の中で学ぶこともあるそうです。支援を続ける中で、特に高校入試が大きな壁となっていることが見えてきました。子どもたちの保護者も日本の学校制度には詳しくない人がほとんどです。また英語や数学は得意でも、国語や文章問題に苦戦する子が多いです。



プロフィール 松井明
(まつい・あきら)
＝上越市出身。元新潟県中学校技術科教員。2019年から3年間、上海日本人学校浦東校へ赴任。現在は上越市内の小中学校で日本語支援講師を務める。さくら国際高校新潟国際学園の上越地区担当。

秋山先生をはじめ支援している皆さんは、子どもたちが無事に高校を卒業し、上越地域で社会に貢献できる人材として活躍してくれることを願いながら支援活動を続けています。

登山米



柿崎観光協会関係者や山岳会会員らが密蔵院護摩堂で祈禱を受けた
(同協会提供)

18 イッツア スモールワールド

松井的多文化共生社会をめざして



中国・上海にある信男(しんなん)教育学園は、日本への大学進学を目指す中国の高校です。生徒たちは中国で2年間、中国の高校の教育課程と日本語を学習します。その後、日本の提携私立高校に編入して1年半学びます。こうして、日本人の高校生と同じ条件で

日本語がつなく未来

— 信男教育学園に学ぶ多文化共生のヒント —



日本語スピーチコンテストで優勝したモンゴルの高校生(5月11日、中国・上海)

日本の有名大学への進学を目指します。この仕組みはダブルディプロマ制度(二重卒業資格制度)と呼ばれる、中国と日本、両方の高校卒業資格を取得できるのが特徴です。

日本語を共通の言葉として使い、国籍を超えて理解し合う姿に、言葉の持つ力の大きさと教育の可能性を強く感じました。そして、日本語は単なる言語学習の対象ではなく、人と人をつなぐ、架け橋となり得ることを実感しました。

同校は中国で初めてこの制度を採用しました。今回、私は創立30周年記念イベントに招待され、現地を訪問しました。イベントでは信男杯国際高校生日本語スピーチコンテストが開催され、アジア各国から集まった高校生が日本語で熱のこもったスピーチを披露しました。その後の立食パーティーで、中国とモンゴルの高校生が日本語で会話している姿を目にしました。

情を生かして、外国にルーツを持つ若者と地域の若者が、互いに学び合い、共に成長できる環境をつくっていきたいと思っています。今後は、国内外の教育機関や地域の人々と連携し、国境を超えて人と人がつながる新しい学びの場を上越から発信することも、私の目標の一つです。



プロフィール 松井 明(まつい・あきら)
＝上越市出身。元新潟県中学校技術科教員。2019年から3年間、上海日本人学校浦東校へ赴任。現在は上越市内の小学校で日本語支援講師を務める。さくら国際高校新潟国際学園の上越地区担当。

令和7年度高校入試学力検査

5教科平均は53・4点

県教育庁

県教育庁高等学校教一度県公立高校入学者選一表した。5教科の平均育課は26日、令和7年一抜学力検査と結果を公一点は53・4点(100

外国にルーツがある子どもたちにとって、高校への進学は大きな壁の一つです。特に、留学目的ではなく義務教育年齢を過ぎてから日本にきた若者は、学校に所属できないことも多く、行政の支援が届きにくいという課題があります。そうした若者たちが家に引きこ



オーバーエイジの若者たち ブラジル籍のマテウス君(17)



地域の役に立とうとアルバイトに励むマテウス君

もり、社会との関わりを持っていない一人です。マテウス君は日本語が理解できませんでした。現在、私が支援しているマテウス君も、そのような状況に置かれ

ショーに行ってくる」と言った。家族は「それはいい」「それはいい」と賛成した。夕食もそこそこに、私は何のことだかわからぬまま、げたを履き

の体育館だった。会場内はもう半分ほど観客が入っていた。私たちは半分辺りの場所の右側に座れた。父はここにこしていた。程なく会場はいっぱいになっ

なつてドキドキしていた。顔を上げて父を見た。父はここに楽しんでるようだった。私のドキドキはいつになつても収まらないまま、また父に連れら

が仲人で、相手は畑違いの商人でした。なぜかスピード結婚となつてしまいました。短い間でしたが、私は相手に手紙を書きま

仕事や、育った村のことなどこの先いろいろと理解していききたい。そんなことでした。最初は両親と離れて暮らしていましたが、子どももできたことで

入院生活となりました。右半身まひ、言語障害となりわが家の生活は一変しました。私の父もその3年前に病死しており、母と私は夢中で働き子ども

「相手を理解できる人」にはなれませんでした。77歳の夫を見送るまで、いや今でもその気持ちには変わりないと思っています。(上越市とよば、89歳)

ことができませんでした。上越国際交流協会の生活日本語教室に参加し、日本語を学んでい

業資格がほしい」という強い思いを受けて、私が担当している広域通信制の「さくら国際高等学校新潟国際学園」への入学を支援し、上越と一緒に学びを進めています。現在、マ

テウス君は高校卒業資格の取得と日本語の習得に力を入れ、地域の一員として活躍できるよう努力を続けています。言葉の壁や制度の制限があっても、全ての子どもたちの将来は可能性にあふれています。そして、彼らはこれからの地域を支える大切な存在です。私たち大人が、子どもたち一人一人が安心して学び、成長できる環境や仕組みを整えていくことも大切だと感じています。



プロフィール 松井明
(まつい・あきら)
＝上越市出身。元新潟県中学校技術科教員。2019年から3年間、上海日本人学校浦東校へ赴任。現在は上越市内の小中学校で日本語支援講師を務める。さくら国際高校新潟国際学園の上越地区担当。

半世紀前、ウィンド
ウズ3・1もなく、HT
ML言語でホームページ
なども作った時の
ことです。
NTTから1万円で
モデムを買いました。
世界中のサーバーにつ

遠藤 由明

な無数の情報搾取ウィ
ルス（バグ）がうごめ
き、対蹠（たいしよ）
的セキュリティソフ
ト開発とのいたちごっ
この日々です。
私は「見られている」

ドウス11に買い替えな
いと、当面の目先のウ
イルスが、私は良いと
しても、他人様に被害
を与える可能性がある
ことは事実ですから、
家内の分も含めて、新

待っています。
いやはや、「伝書バ
ト」「のろし」「飛脚
（ひきやく）」の世界
に戻りませんか？ 私
を含めて、蜜のような
麻薬を味わってしまっ

「便利で速い」を人質
に取られて、『ありが
たいなあ』と、せっせ
と使用料（お布施）を
「デジタル社会の迷信
教祖たち」に貢いでい
くとしましよう。

75歳

情報拡散中
上越タイムス
公式X(旧Twitter)
@jtimesdg



これまでの連載で、
上越で暮らす外国に
ルーツのある方々やそ
の子どもたち、そして
彼らを支える地域の取
り組みを紹介してきま
した。私たちが住むこ
の地域には企業、学校、
行政、市民団体などが
連携し、世界から来た
方々を地域の一員とし
て受け入れ、共に暮ら

地域を共につくる仲間



上越国際交流協会の交流会（6月13日）
で「アメイジング・グレイス」を参加
者全員で歌った

していいこうとする温か
な風土があります。

私は、来日した若者
が学校や地域の支援を
受けて日本語を学び、
働く力をつけていく姿
を目の当たりにしまし
た。その背景には、地
域の人のさりげない
「気付き」や「声かけ」、
そして「居場所づくり」
といった日常の関わり
と、困っている人を
放っておけない上越ら

しい人情があるからだ
と思います。

そして、この連載を
通して私が強く感じた
のは、外国にルーツの
ある人たちを「助ける
存在」としてではなく、
「地域を共につくる仲
間」として見ることの
大切さです。言葉や国
籍にとらわれず、全て
の人が安心して学び合
い、お互い助け合いな
がら暮らせる社会が、
私たちの地域の未来を
豊かにしていくのだと
思うようになりました。

また、多文化共生は
特別な制度だけで実現



プロフィール 松井明
（まつい・あきら）
＝上越市出身。元新
潟県中学校技術科教
員。2019年から3年
間、上海日本人学校
浦東校へ赴任。現在
は上越市内の小学校
で日本語支援講師を
務める。さくら国際
高校新潟国際学園の
上越地区担当。

でもありません。
今後ますます多
文化共生社会が
実現していく中
で、外国にルーツ
のある人々を「助
ける存在」として
ではなく、「地域を
共につくる仲間」
として見ることは
大切だと思います。
言葉や国籍にと
らわれず、全ての
人が安心して学
び合い、お互い
助け合いながら
暮らせる社会が、
私たちの地域の
未来を豊かにし
ていくのだと思
うようになりました。

今回の連載はひと
まが、また機会が
あれば地域の多文
化共生社会の実
現に向けての取
組をお伝えでき
ればうれしいで
す。今まで
読んでくださった
皆さま、ありが
とうございました。

おわり